

アラブの統一の動き

一九九〇年五月一〇日

ルタの時よりも、弱まっている。

この間の東欧の選挙では、旧共産党の改革派、さらに、社会民主主義者まで敗北し、キリスト教徒に至ってのソ連の軍事的脅威はなくなっている。

ソ連は、米帝との交渉において、切札をすべて失った状態にあり、昨年一二月のマルタル会議の時点よりも、著しく後退した状況になってしまっている。

アラブの統一の動き	資料	蜂起統一指導部アピール	アサド大統領記者会見主旨	五・三〇リッダ闘争一八周年	赤軍声明	不滅の輝き
(3)教訓から学ぼう	・ストップ・プレス編集後記	（一九九〇年四月一一日）	五月一〇日	14	16 15	9 8 5 5 1
編集後記	・	（一九九〇年四月一一日）	：	14	16 15	9 8 5 5 1
発行 ウニタ書舗	東京都千代田区神田神保町1-52	TEL. (03) 291-5533	編集 J.R.A.	郵便振替 東京1-48443	三菱銀行神保町支店 当座9012656	会員制 年会費24000円

世界的な枠組み、とりわけ、歐州での東西の枠組みが、東欧のNATO化とでもいうべき方向に再編されつあることが、明確になってきた。米帝および他の帝国主義が、東欧をNATO、ECに組み込み、その代わりに、バルト三国の問題などソ連邦内の民族問題には介入しないという形でマルタ合意の内容を作ってきたことが、明確になっている。

五月三〇日に、ソ米サミットが予定されているが、ソ米とともに、サミットでの交渉の立場を強めるための外交展開を行っている。とりわけ、今回のサミットにおいては、ソ連の立場が、マ

一方、アラブの側は、世界的な枠組みの変化のなかで、米ソという超大国に依存できないこと、独立問題、また、イスラム原理主義による民族問題等を抱え、困難な立場に置かれている。米帝は、「 $\frac{1}{2}$ 戦略」つまり、歐州をソ連に対

する正面での対峙ととらえ、同時に、中東へのソ連の進出を阻止するという戦略をもつて対峙してきた。しかし、この中東においても、ソ連は、アフガニスタンからすでに撤退し、米帝にのブルジョア政黨が政権につくという事態になった。ブルジョア潮流が勝利したことは、ゴルバチョフ大統領の構想していたであろう社民、もしくは、改革派による東欧の再統一が不可能になつたことで、ソ連の影響力が後退したことを見た。

こうした状況を背景として、ゴルバチョフ大統領は、シリアのアサド大統領をソ連に招待した。

したトブロク会談は、その象徴的なものであった。

そして、今月は、ソ連系ユダヤ人「移民」問題を討議するための緊急アラブ・サミットをめぐって、アラブ民族としての立場を作り出す方向と、そのヘゲモニーをめぐって、イラク、PLの思惑が動いている。今号では、アサド大統領一ゴルバチョフ大統領会談の位置と、緊急アラブ・サミットの動きを中心見ていただきたい。

一 アサド大統領一ゴルバチョフ大統領会談 ムバラク・エジプト大統領との会談を控えていたシリアのアサド大統領は、急速、モスレムのラマダン（断食月）明け直後の二八日に、ソ連を訪問した。この訪問には、副大統領カッダム、外相シャラー、国防相トラス、進歩民族戦線議長ムシャルカが参加した。訪問自体は、二日間の短いものであったが、今後の中東情勢の流れの中で、重要な意味を持つものであった。この会談は、ソ連のゴルバチョフ大統領の側からの要請としてあった。これまで、ゴルバチョフ大統領の側は、再三、アサド大統領に会見を求めていたが、シリアの側は対応してこなかつたという経緯がある。

表面上では、シリアの側は、ソ連との友好関係には変化がないと言い、また、ソ連の駐シリア大使が、シリアの路線である対イスラエル戦略均衡に反対を表明し、シリアへの武器供給をしていたいなどの発言を行った際にも、それらを否定していた。

の焦眉の課題となっているソ連系ユダヤ人「移民」問題に対して、否定的な態度ではないことを示すことであった。

第四に、ソ連からの軍事援助の約束を取りつけることで、この間のソ連のネガティブな態度がシリアの立場を弱体化させてきたことを克服し、対イスラエル戦略均衡建設路線の正当性を強化するものであった。これは、ムバラク大統領が進めようとする直接対話路線に対して、物質的な回答となるものであった。

ソ連は、ソ米サミットを前に、アラブ・カードを必要とし、シリア、そして、エジプト自らの影響の下に置きたいという意向があつたため、シリアからの要求を受け入れる形になつている。とくに、中東では、ソ連系ユダヤ人「移民」一被占領地への入植問題をめぐつて、イスラエルとそれを支援する米帝に対しても、親米派のエジプトを含めたアラブ諸国が反発が強まる一方、ソ連への不信がつのつていた。

それに対しても、ソ連は、シリア、エジプトとの関係を強めることで、中東へのソ連の立場を強め、それをもつて、米帝との交渉に臨もうとしたことは、明確であった。

二 アサド大統領一ムバラク大統領会談

アサド大統領が訪ソを終えて帰國した直後の五月二日と三日の二日間、ムバラク大統領がダマスカスを訪問し、アサド大統領と会談した。経緯から言えば、この会談は、リビアのトブロクでの会談に続いて、アラブの統一をどう進め

難な立場に置いてきた。

そして、ソ連のユダヤ人「移民」の自由化と被占領地への入植は、ソ連への反発を強めるには、十分であった。シリアを含めて、アラブの首脳は、ユダヤ人の「移民」に関しては、ソ連間の秘密協定があることを信じていたし、ソ連は、十分であった。シリアを含めて、アラブの政策を変える必要があった。

ソ連側は、「新思考外交」の結果として、米

帝に対する立場を弱めており、東欧がNATO化、EC化するなかで、ソ米首脳会議での交渉のカードが必要であった。

二日間の短い会談で、シリア側は、大きな成果をかちとることになった。会談後、タス通信は、ソ連外交筋の談話として、「モスクワでの会談は、ソ連ーシリア間の伝統的な友好関係の発展に向けた重要な一步であり、……この両国の関係は、近東紛争を緩和させ、近東地域の和平を再び強化することになる」と報道した。

明らかになつたのは、第一に、この「移民」問題に関して、ソ連が、米との秘密交渉は存在しないと確認したこと。そして、人権一般ではなく、アラブの権利を配慮して、ユダヤ人「移民」について再検討するという約束を行つたことである。そして、ソ連とシリアは、中東和平

るかということが、その焦点としてあつた。

とりわけ、ムバラク大統領自身が、バグダッド・サミットにアサド大統領の参加をかちとろうと、説得に来たのである。そのため、ムバラク大統領の心中は、シリアーイラク、シリアーPLOの和解を計ることにあつた。

しかし、シリアは、バグダッド・サミットへの参加を拒否した。バグダッド・サミット開催の動きが、四月一八日のアラファト議長の要請によって公式に始まつた当初から、シリアは、不参加を明確にしていました。そして、ムバラク大統領との会談においても、「ほとんどの問題で、考え方が不一致だった」というより、対立していなかった。したがつて、今後も、会談を続けること

を、アサド大統領は明らかにしている。

このバグダッド・サミットは、あらゆる側面から、フセイン・イラク大統領一アラファト議長のイニシアチブを強めるものであり、シリアには、賛同できないものであった。アサド大統領は、参加できない理由を以下のように述べた。第一に、サミット本来の目的は、アラブ民族の利益と熱望にとって有効なものを作ることであり、個人的利益のためにやることではないこと。

第二に、最初から開催地が特定されているのは、慣行とは違うこと。討議を経て、開催地を決定していくのが筋であるとしている。第三に、アラブが検討したい問題から見た時、議題が狭すぎること。第四に、過去のそして現在のシリアーイラク関係を考えれば、誰も、シリアが参加することは思わないだろう、という点を挙げている。

二 アサド大統領一ムバラク大統領会談

アサド大統領が訪ソを終えて帰国した直後の五月二日と三日の二日間、ムバラク大統領がダマスカスを訪問し、アサド大統領と会談した。経緯から言えば、この会談は、リビアのトブロクでの会談に続いて、アラブの統一をどう進め

過程を妨害しているとして、イスラエルと米を、共同で非難した。ゴルバチョフ大統領は、「移民」の中止そのものは確認しなかつたが、ソ連条件な妥協をもつての「政治解決」を要求する一方、対シリア武器供給を制限したので、シオニスト・イスラエルと対峙しているシリアを困

難な立場に置いた。

しかし、ゴルバチョフ大統領の登場以来、シリアとソ連の関係が冷却していることは事実であった。とくに、ソ連の「新思考外交」が、無条件な妥協をもつての「政治解決」を要求する一方で、シリア武器供給を制限したので、シオニスト・イスラエルと対峙しているシリアを困難な立場に置いてきた。

そして、ソ連のユダヤ人「移民」の自由化と被占領地への入植は、ソ連への反発を強めるには、十分であった。シリアを含めて、アラブの首脳は、ユダヤ人の「移民」に関しては、ソ連間の秘密協定があることを信じていたし、ソ連は、十分であった。シリアを含めて、アラブの政策を変える必要があった。

ソ連側は、「新思考外交」の結果として、米帝に対する立場を弱めており、東欧がNATO化、EC化するなかで、ソ米首脳会議での交渉のカードが必要であった。

二日間の短い会談で、シリア側は、大きな成果をかちとることになった。会談後、タス通信は、ソ連外交筋の談話として、「モスクワでの会談は、ソ連ーシリア間の伝統的な友好関係の発展に向けた重要な一步であり、……この両国の関係は、近東紛争を緩和させ、近東地域の和平を再び強化することになる」と報道した。

明らかになつたのは、第一に、この「移民」問題に関して、ソ連が、米との秘密交渉は存在しないと確認したこと。そして、人権一般ではなく、アラブの権利を配慮して、ユダヤ人「移民」について再検討するという約束を行つたことである。そして、ソ連とシリアは、中東和平

をめざすシリアに対して、軍の近代化にむけた援助を与えるとの態度を明確にした。政治的には、すこ間、軍事援助のカットによって、対シリア軍事債権の問題(一〇〇億ドルともされる)を解決する方向を目指していた。政治的には、すでに、シリアに対して、防衛的な軍事を要求してきた軍事援助の中止を、軍事援助再開に転換させたことを示している。

第三には、外相レベルでの提起協議に合意したことである。この会談は、シリアにとって、ムバラク大統領との会談を行つた。シリアの立場を強めることに意味があった。それは、第一には、ムバラク大統領との会談において、ムバラク大統領が、バグダッド・サミットへの参加を求めるためには、シリア自身が、アラブ民族の立場から、ソ連系ユダヤ人「移民」問題に対処しようとする姿勢を示す必要がある。さらには、ソ連からの約束をかちとることである。そして、ボイコット自身が、現在アラブ民族によって、ボイコット自身が、現在アラブ民族

シリアへの攻撃を行おうとしてきたのがイラクであり、シリアは、イランーイラク戦争に関しても、即時停戦を呼びかけつつ、イラン側を支援してきた。こうした経緯からも、バグダッド・サミットを開催してきた。こうした経緯からも、バグダッド・サミットを開かせようとして自身がシリリアが参加できないことを見越したものとしてあります。開催地の問題は、シリアにとつては、重要な問題としてあつた。

また、討議が、ユダヤ人「移民」問題と、反イラク・キャンペーンの問題に限定され、レバノン問題について討議されないことも、シリリアには受け入れがたいものであった。レバノン問題が討議されれば、タイフ合意を破壊しようとするアラファト議長ーイラクのこれまでの策動が問題とならざるをえないという事情から、イラクとアラファト議長は、それを回避しているからである。

また、シリアは、ムバラク大統領との会談後、アラファト議長のシリア訪問を歓迎する立場を明らかにしたが、アラファト議長側の要求である国家元首としての扱いについては、明確にしないままだった。アサド大統領は、「シリアは、常に、すべてのアラブ市民の国である」と表現し、数日後、シリア情報相も、「前提条件なしで、アラファト議長のシリア訪問を歓迎する」

しかし、アラブ圏内の問題を複雑化させたのが、レバノンにおける利益についてシリアと対立するアラファート議長である。核兵器の問題など、国際的に孤立しつつあるフセイン・イラク大統領を、アラブが団結して支援するという構造を作ろうとしたが、これは、シリア包囲の一環としてもある。

シリアは、ソ連が中東へ再接近せざるをえないと、いう条件を利用して、その政治的、軍事的な立場を強めることによって、反シリア勢力の策動を押さえつつ、シリアのイニシアチブによると、アラブの統一した立場を形成する方向に持っていこうとしている。

六

蜂起統一指導部アビール

にある。

の首都エルサレムの呼びかけ

す)は、以下の点を再確認する。

地区に路地委員会通り委員会地
区委員会を組織する活動に邁進しよう。これら
の諸委員会を、インティファーダの日々の諸問
題に、人民が集団的に参加していく闘争の武器
とし、安全、教育、指導、農業などの諸委員会
の中核にしよう。また、攻撃部隊の皆さんに呼
びかける。これらの路地の安全を保証し、住民
を保護するために、路地委員会の皆さんと完全
な連携を保とう。この意味で、大衆に対応する
場合には、緊急事態以外は覆面をとること、そ
して、敵対力とその手先との対決においても覆

現役階級の
編成

現段階の発展の主要側面は、シオニストか、和平の方向を選択するのではなく、シャミール政権によるソ連系ユダヤ人「移民」の西岸、ガザへの入植によって、併合へと進もうとしていること、そして、米帝が、実質的に、これを支援している状況のなかで、「直接交渉」による和平への道が遠のいたことがある。

ト議長、ムバラク大統領、フセイン・ヨルダンの国王などにとっても、現在の状況の中では、このソ連系ユダヤ人「移民」の西岸、ガザへの入植を阻止することが第一の問題となっている。そして、アラブの統一した立場を示すことで、それに対抗しようとしている。そこに、バグダッド・サミットの位置がある。

しかし、アラブ内での問題を複雑化させたの

1990年6月30日 第57号

とした。ここに見られるように、シリア側はこれまでの態度を変えないことを、明確にしている。

イラクのサッダム・フセイン大統領、PLOのアラファト議長が、タイフ合意に基づくレバノン内戦終結・国家再建に敵対する右翼勢力への援助を、反シリアの立場で策動してきていた部分、シリアにとっては、それを不問にすることができないのである。

すでに述べたように、アサド大統領は、ソ連訪問によって、ソ連系ユダヤ人「移民」問題に対し、シリアは反対しており、実際に行動し

三 ソ米サミットと中東和平の流れ
ソ連がアサド大統領—ゴルバチョフ

ド・サミット参加拒否の政治的正当性を獲得している。また、ソ連との関係が強まることで、より、自らの立場を強めて、イスラエルとも対峙できるようにしたのである。

ムバラク大統領にとっては、シオニスト側が「直接交渉」すら拒否し、さらに、ユダヤ人「移民」問題を利用し、アラブとの和平ではなく、入植地を拡大する方向に動いていること、また、それに対しても、米帝は、何らの役割を果たせないばかりか、ユダヤ人「移民」問題ではシオニストに協力していることが明らかであるとの理由から、アラブの統一を基盤にした展開をしていくことが必要であった。とりわけ、対イスラエル前線国のシリアとの関係強化を必要としていたのである。そのため、ムバラク大統領は、シリアーイラク、そして、シリアーLOの和解を実現しようとして、努力したのである。

ソ連がアサド大統領—ゴルバチョフ大統領会談で、シリアへの支援を確認することにより、また、シオニストが和平よりも入植地の拡大を進めようとするなかにあって、ムバラク大統領—アラファト議長が進めようとしてきた「直接交渉」の道は、唯一の道ではなくなった。アラブの統一を、シオニスト・米帝に対峙するものに作り上げる道が再び開かれつつある。ソ連は、この中東での米帝離れの現象を使つて、米帝へのカードとすることで、交渉を有利なものにしようとするだろう。さしあたっては、米帝に対して、ユダヤ人「移民」の受け入れ、被占領地への入植を止めるようイスラエルに圧力をかけること、さらに、シオニストに対しても和平努力を推進するための圧力を加えることを要求するようになるだろう。

な話が行わるのか、これが、今後の中東情勢の展開の要になるだろう。

バグダッド・サミットの意図としては、ソ米サミットにむけて、アラブの立場を示すことにあら。しかし、シリアによつて、「移民」問題については、すでに、ソ連への申し入れが行われた格好になつてゐる。これは、ソ米サミットの成り行きを見てから、どのように中東の政治展開をしていくのかを見ていくことが得策であると、シリアがとらえていることを示してゐる。

ソ連の中東での影響力の再構築に対して、米帝がどのように対応するのかが、注目される。すでに、米帝と共同歩調を取つてきたムバラク大統領が、和平の見通しについて、悲観的であることを明らかにしていることに見られるように、現在の流れは、「直接交渉」の方向に向かわないと变成了。それほど、ソ連系ユダヤ人「移民」の問題は、重要な問題としてある。

しかし、シリアにとってみれば、これを認めることは、ムバラク大統領がアラブにおける位置を強めることにしかならない。シリア側の立場は、訪ソ、さらには、ムバラク大統領との会談、そして、ムバラク大統領との会談における、バグダッド・サミットへの参加拒否の表明を通してムバラク大統領／フセイン・イラク大統領／アラファト議長のイニシアチブを許さず、シリアのイニシアチブを貫徹することにあつた。

が、シャミール政権は、これを拒否してきた。そして、それが引き起こしたイスラエル内の政治空白の継続の中で、米帝は何らの努力も行っていないばかりか、ソ連系ユダヤ人「移民」の問題に関しては、実質的に、入植活動を推進させることにしている。「エルサレム決議」などの米議会の決議は、シオニスト・ロビーの圧力に屈し、イスラエルを助けるものでしかない。今年は、米上院の選挙が秋に予定される分、議会は、シオニストの要求を入れざるを得ないとう条件がある。

チナ獨立国を不動のものはする一環として、沙
の行動をとろう。

四月二一日（土曜日）は、商店は午後五時ま
で営業しよう。

四月二二日（日曜日）は、エルサレムの日の
ゼネスト。パレスチナの首都に對する侵略に対
決して、イスラム教徒—キリスト教徒の團結を
示そう。

四月二三日（月曜日）は、解放村のためのゼ
ネスト。解放村では、パレスチナの旗が掲げら
れ、村や人口密集地の入り口を石で封鎖しよう。
攻撃部隊は、こうした解放村を防衛し、イスラ
エル兵士の襲撃に對して、対決しよう。路地委
員会の皆さんは、村、町などの広場で大衆デモ
を組織し、民族権力を補足する基礎として人民
集会を組織しよう。

四月二四日（火曜日）は、アイード・アル・
フトルの祭日開始。商店や市場は、夕方五時ま
で営業しよう。

四月二五日（水曜日）は、商店は、午後一時
まで営業しよう。イスラム世界に對して、あい
さつを。パレスチナ人民の皆さん、殉教者の墓
參りをし、殉教者の家族を訪問しよう。

四月二六日（木曜日）は、家族連帯の日。商
店は、午後一時まで営業しよう。路地委員会は、
各路地の困窮している人々に、援助しなくては
ならない。

四月二七日（金曜日）は、インティファーダ
とエルサレムに團結するゼネストの日。パレス
チナ内外のパレスチナ人、そして、アラブ人の

ミナー、講演会などの大衆行動をやろう。
四月二八日（土曜日）は、国外放された人々の日。商店は、午後の一時まで営業しよう。午後一時きっかりに、すべての交通を止め、個人、公共を問わず、車両を運転している人は、全員で、車から五分間降り、警笛を鳴らそう。全員で、すべての仕事を五分間止めよう。

四月二九日（日曜日）と三〇日（月曜日）は、商店は午後一時まで営業しよう。

五月一日（火曜日）は、国際労働者の日。工場、会社、工作所は、この日は、有給休暇の日とすること。この日を記念して、統一指導部は労働者の皆さんに特別なあいさつを送る。工場会社に要請する。労働者階級との連帯を、失業者への支援、労働者の賃上げによって労働者の生活レベルの向上を保証しよう。また当該責任機関に要請する。宗教的、イスラム的施設で働く人々が抱える諸問題を早急に解決しよう。この日は、商店は、午後一時まで営業しよう。

五月一日（水曜日）は、商店は、午後一時まで営業しよう。

五月三日（木曜日）は、GUPS（パレスチナ学生総同盟）の第一〇回大会の開催を記念し、統一指導部は、大会参加者に特別なあいさつを送る。そして、パレスチナ国内の学生の皆さんに言いたい。真剣な教育課程という我々の非常に大切な富を脅かすことになるので、試験で嘘をつかないようにしよう。商店は、午後一時まで営業しよう。

五月四日（金曜日）は、一〇歳以下の殉教者
の追悼の日。モスクでは、この子たちの魂が平
安であるよう、祈りを。その後、この幼い殉教
者を追悼するデモをしよう。商店は、午後一時
まで営業しよう。

五月五日（土曜日）は、閉鎖された学校、大
学と連帯する日。商店は、午後一時まで営業し
よう。連帯行動をとり、人民教育課程を徹底し
て討議しよう。午後八時には、すべての家庭で
は、一五分間、電気を消そう。青年は、通りに
出て、停電攻撃と文盲化攻撃に抗議しよう。

五月六日（日曜日）は、イスラエルの獄に囚
われている我らが英雄たちに連帯する日。獄中
者の皆さんにあいさつを送る。獄中の皆さん
は、獄中の団結を促進する努力を継続し、副
次的な矛盾を避けよう。少なくとも、理性と対
話をもって、矛盾を解決しよう。

五月七日（月曜日）と八日（火曜日）は、部
分的に、午後一時まで、商店を開けよう。

五月九日（水曜日）は、インティファーダが
三〇カ月目に入るのを記念するゼネストの日。

五月一〇日（木曜日）と一一日（金曜日）は、
商店が完全に開ける日。午後五時まで、商店を
営業しよう。

どの日々も、とくに、学校が終わった後で活
動し、多様な形態の闘争の日としよう。
我々は勝利する。

ゼネスト ストライキは、心理的、情宣的な影響力をもつ抗議行動であることを強調する。しかし、ストライキの形態を刷新することを宣言する。さらに、ゼネストとは、家に閉じこもっていることではないという点を強調する。逆に、人民の皆さん、抗議デモ、占領当局との対決を強化し、路地委員会の監督のもとに活動するという考え方を深めていくような多様な活動実践に慣れていてほしい。

社会的な共同責任 アイード・アル・フトルが近くになっているので、世界中のイスラム教徒の皆さんを、神が祝福されたことを願う。路地委員会の皆さんに、呼びかける。困っている家族の面倒をしっかりみる義務を完全に果たそう。したがって、すべての委員会は、自分たちの路地地区などの個々人や住民への完全な責任を負っている。すべての力を上げて、パレスチナ人民の皆さんの信頼と、親密さを建設しよう。人民の皆さんに、呼びかける。手配している人、投獄されている人、インティファーダの英雄とその家族を支援し、殉教者、獄中者の家族を支援しよう。グリーン・カード保持者には、まず、職業と支援を与えよう。さらに、工場の所有者、富裕な皆さんに呼びかける。困窮家族を採用しよう。

内部抗争 占領当局は、個人同士、家族内部、部族間の抗争を逆プロパガンダに利用している。

チナ独立国を不動のものにする一環として、次の行動をとろう。

四月二一日（土曜日）は、商店は午後五時まで営業しよう。

四月二三日（日曜日）は、エルサレムの日のゼネスト。パレスチナの首都に対する侵略に対決して、イスラム教徒－キリスト教徒の団結を示そう。

四月二三日（月曜日）は、解放村のためのゼネスト。解放村では、パレスチナの旗が掲げられ、村や人口密集地の入り口を石で封鎖しよう。攻撃部隊は、こうした解放村を防衛し、イスラエル兵士の襲撃に対し、対決しよう。路地委員会の皆さんは、村、町などの広場で大衆デモを組織し、民族権力を補足する基礎として人民集会を組織しよう。

四月二十四日（火曜日）は、アイード・アル・フトルの祭日開始。商店や市場は、夕方五時まで営業しよう。

四月二十五日（水曜日）は、商店は、午後一時まで営業しよう。イスラム世界に対して、あいさつを。パレスチナ人民の皆さん、殉教者の墓参りをし、殉教者の家族を訪問しよう。

四月二六日（木曜日）は、家族連帯の日。商店は、午後一時まで営業しよう。路地委員会は、各路地の困窮している人々に、援助しなくてはならない。

的統一を強化しよう。

パレスチナ人の血をパレスチナ人の手によって流させない、個人的な矛盾を党派間や、政治的でない矛盾に転化させないことを宣言する。これは、国民憲章であり、歴史的な誓いである。統一は、犯してはならないものである。すべての党派の皆さんに呼びかける。皆さん内部の民族的統一を強化しよう。

裏切り者 我々は裏切り者を処刑し、処断してきたが、敵はこれによつて利益を得てきた。反面、こうした処刑は、裏切り者を根絶やしにはできなかつた。そこで、統一指導部と、その実行機関である攻撃部隊は、今後、最高司令部の指揮によらない限り、死刑宣告、死刑の執行を止めるこことを確認する。一方、攻撃部隊の皆さんは、社会が拒否すべきこうした裏切り者をしつかり監視し、追跡したうえで、自衛の場合は攻撃部隊も人民も裏切り者を殺す権利を持つという条件のもとに、裏切り者の犯した犯罪に見合う罰を与える。この期に、マルドゥース・マトビアンと後日明らかにする他の者への死刑を宣言する。ただし、執行は、後日通告するまで、執行猶予とする。

統一指導部指令の実行 攻撃部隊は、統一指導部の指令の実行をよく監視するよう、発表する。不動産所有者、とくに、中央部の不動産所有者は、家賃を上げてはならず、住宅難を悪用してはならないことを明らかにする。また、家で、すべての仕事を五分間止めよう。

四月二九日（日曜日）と三〇日（月曜日）は、商店は午後一時まで営業しよう。

五月一日（火曜日）は、国際労働者の日。工場、会社、工作所は、この日は、有給休暇の日とすること。この日を記念して、統一指導部は、労働者の皆さんに特別なあいさつを送る。工場、会社に要請する。労働者階級との連帯を、失業者への支援、労働者の賃上げによって労働者の生活レベルの向上を保証しよう。また当該責任機関に要請する。宗教的、イスラム的施設で働く人々が抱える諸問題を早急に解決しよう。この日は、商店は、午後一時まで営業しよう。

五月二日（水曜日）は、商店は、午後一時まで営業しよう。

五月三日（木曜日）は、GUPS（パレスチナ学生総同盟）の第一〇回大会の開催を記念し、統一指導部は、大会参加者に特別なあいさつを送る。そして、パレスチナ国内の学生の皆さんに言いたい。真剣な教育課程という我々の非常に大切な命を脅かすことになるので、試験で嘘をつかないようにしよう。商店は、午後一時まで営業しよう。

の一部には、価格を釣り上げる者がいるが、や
きちんと約束を果たしてほしい。商人と工場主
の一部には、価格を釣り上げる者がいるが、や
りすぎないよう警告する。また、薬局の皆さんには、商業分野のゼネストの日には、開店が
義務づけられている薬局以外は、ゼネストに参加するよう、要請する。パン屋の中には、パン
を焼く他に小さな店を開いている人がいるが、菓子類だけを売ろう。商人、とくに、エルサレム内部の商人に警告する。パレスチナ製造があるのに、イスラエル製品を扱うのは止めよう。とくに、現在のシーズンでは、西瓜は、パレスチナ製を扱おう。攻撃部隊は、これらの指令に違反したり、実行を遅らせたりする者は、何人といえども許さないことを、特記する。

攻撃部隊 攻撃部隊は、団結して活動することと、そして、占領当局に対する対決を多様な形態でもって拡大すること、人民に対しても、とりわけ、解放村を恒常化させ、独立問題を確固としたものとする闘いの日々において、人民の安全を保証し、防衛しよう。統一指導部は、統一ストライガント、声明を強調し、個人の家の壁に落書きを書かないよう、投石する際には狙った車が敵か味方かを見極めてやるよう、呼びかける。

インティファーダの人民の皆さん。皆さんの、とくに、カーン・ユニス、ラファハ、エルサレム、クフル・マレク、アイン・ヤブルード、アル・ジャラズーン、ベイト・フォリク、サレムの皆さん、計画的な闘争拡大、不服従、パレス

五月四日（金曜日）は、一〇歳以下の殉教者の追悼の日。モスクでは、この子たちの魂が平安であるよう、祈りを。その後、この幼い殉教者を追悼するデモをしよう。商店は、午後一時まで営業しよう。

五月五日（土曜日）は、閉鎖された学校、大学と連帶する日。商店は、午後一時まで営業しよう。連帶行動をとり、人民教育課程を徹底して討議しよう。午後八時には、すべての家庭では、一五分間、電気を消そう。青年は、通りに出て、停電攻撃と文盲化攻撃に抗議しよう。

五月六日（日曜日）は、イスラエルの獄に囚われている我らが英雄たちに連帶する日。獄中の皆さんにあいさつを送る。獄中の皆さんは、獄中での団結を促進する努力を継続し、副次的な矛盾を避けよう。少なくとも、理性と対話をもつて、矛盾を解決しよう。

五月七日（月曜日）と八日（火曜日）は、部分的に、午後一時まで、商店を開けよう。

五月九日（水曜日）は、インティファーダが三〇カ月目に入るのを記念するゼネストの日。

五月一〇日（木曜日）と一一日（金曜日）は、商店が完全に開ける日。午後五時まで、商店を営業しよう。

どの日々も、とくに、学校が終わつた後で活動し、多様な形態の闘争の日としよう。我々は勝利する。

前に、地図の上で明確にするという条件をつけた。シリアは、もともと、包括的和平ぬきの兵力引き離しでなかつたら、戦争が続くだらうという立場ではあったが、この合意に責任を持った。サダトは、理論的には、共同計画に責任を持つたが、実際行動では、部分的なものを採用した。したがって、シリアはジュネーブに行かず、エジプトは、行った。

国際会議は、イスラエルが作ったものではない。イスラエルはどんな会議も望んでいない。会議をやれば、イスラエルの侵略的性格が明らかにされ、領土拡張政策を隠すことができなくなるからである。イスラエルは、過去も現在も、将来も、ナイル河からユーフラテス河までの「大イスラエル」を望んでいる。我々は、イスラエルの眞の野望を無視するべきではない。一九〇〇年、一九三〇年に、今日のイスラエルができると予測した人がいるだろうか。「大規模な移民は、大イスラエルを必要とする」というシャミール発言の意味を、真剣にとらえねばならない。

シリアの立場は、国際会議支持、我々の土地のすべてを回復するというもの。シリアが賛成したら採られるという措置があるなら、それは、双方に適用されるべき。実際に和平を欲しているが、アラブの土地、権利を譲歩することはで

●五・三〇リッダ闘争一八周年

①赤軍声明・リッダ闘争一八周年にあたつて

人民革命の時代をともに切り開こう
一九九〇年五月三〇日 日本赤軍

一、日本の人民、同志・友人のみなさん！

われ日本赤軍は、五・三〇リッダ闘争一八周年にあたって、さらに、日本人民の解放と世界の人民との国際主義的な連帯のためにたたかい抜く決意を表明します。五・三〇リッダ闘争は、パレスチナ人民との国際主義的連帯のたたかいとして、また、人民と革命に対して自らの生命をも捧げるわれわれの革命精神の実践としてあつたのです。このリッダ闘争が示した国際主義と革命精神を継承し、われわれは、たたかってだし、さらにそれを堅持、発展させる決意です。

パレスチナ人民のたたかいは、持久的なパレスチナ人民蜂起として、現在もたたかいぬかれ、シオニストを追い詰めきました。パレスチナ人民蜂起へのパレスチナ革命の発展は、わがリッダ闘争戦士やパレスチナ革命の殉教者たちの血の上に築かれています。すなわち、それは、強大なシオニスト軍にたいして、死をも恐れず、たたかいぬく石づぶての人民のなかに赤く流れています。この死をも恐れない人民は、シオニストを恐怖させ、追い詰めました。われわれは、こうしたパレスチナ人民のたたかいで学び、日本人民、同志、友人のみなさんとともに、たたかいぬきたいと思います。

できると予測した人がいる

シリアの立場は、国際会議支持、我々の土地のすべてを回復するというもの。シリアが賛成したら採られるという措置があるなら、それは、双方に適用されるべき。実際に和平を欲しているが、アラブの土地、権利を譲歩することはできない。

がリッダ闘争戦士やパレスチナ革命の殉教者たちの血の上に築かれていました。すなわち、それは、強大なシオニスト軍にたいして、死をも恐れず、たたかいぬく石つぶての人民のなかに赤く流れています。この死をも恐れない人民は、シオニストを恐怖させ、追い詰めきました。われわれは、こうしたパレスチナ人民のたたかに学び、日本人民、同志、友人のみなさんとともに、たたかいぬきたいと思います。

1 ソ連訪問の位置と結果

(アサド大統領は、ムバラク大統領との会談後、エジプト記者団と会見。以下は、その主旨中見出しほり、編集部)

ソ連は、貫して、アラブ民族の大義を支持してきた。今回の移民問題については、人権一般ではなく、アラブの権利を考慮して、再検討するとしている。また、米との間に、秘密合意はないとしている。また、アラブ－イスラエル紛争の解決にむけては、当該の国連決議にのっとり、国連安保理常任理事国と関連諸国が参加し、かつ実効力のある中東和平国際会議で解決していくことで、ソ連－シリアは、合意した。ソ連との友好関係は、良好である。ソ連は我々の友人である。ソ連は、シリア軍の近代化に向けて、援助を約束した。シリア軍は、近代化されてはいるが、これで十分ということはない。また、定期的に、外相会議を行って、共同を深めていくことにも、合意した。

卷之三

3 緊急アラブ・サミットに関する
まず、トブロクでの会談をリビア、エジプト、
スー丹の指導者と持った時、アラブ、国際情
勢からみて、アラブ民族に有益なことを追求す
るために、サミット開催の意義を強調した。し
かし、その後、全員が一致すべき大枠のみを討
議すること、開催場所にも合意が必要だとの報
道が流されて、驚いた。

サミットというのは、民族の利益と熱望に有
効なものを作り出すことをめざすものであって、
一国のためにするものではない。現在の条件で
は、どの国も、汎アラブ民族の利益と全アラブ
諸国利益という観点から、態度を決定する権
利がある。今回のサミット開催要求が、限定さ
れた議題なので、シリアは、参加しない。また
開催場所の問題も、諮問を重ねる中で、決めて
いくという一般的取り決めがある。開催場所は
誰もが反対しない所にするべき。シリアとイラ
クの関係については、誰もが囁つていて、各組

5 中東和平の解決にむけて

シリアは、一九七三年以来 国際会議を受け入れてきた。シリアは和平を望んでいるが、直接受けた。シリアは和平を望んでいたが、直接交渉方式には、他のアラブとの間に矛盾を引き起こし、結果として、地域の安定と包括的和平の実現にはつながらない個別の措置に終わってしまうので、反対する。イスラエルは、長期的利益から判断して、ゴランを返還し、シリアとの単独合意を作ろうとした。もし、シリアが、一国の利益を考えるなら、単独交渉をやつたかもしれない。そして、単独交渉の代価をアラブが払わねばならなくなつた。

アラブの側は、和平を欲している。だから、集団で、和平達成にむけた計画を作ろうではないか？

一〇月戦争の後、シリアとエジプトは、両戦線の兵力同時引き離しで、合意した。ただし、西側は、ソーニー・ニゲランの「二・三五」、東側は、

二、
パレスチナ革命をとりまく情勢は、大きく変化しています。とくに、昨年来の東欧における激変は、パレスチナ革命のみならず、世界の人間のたたかいへ大きな影響を与えていました。
東欧の激変は、一方において、人民が歴史の原動力であることを、パレスチナ革命の発展と同様に、示していることです。すなわち、人民の時代が切り開かれていることを示しています。
他方においては、東欧における人民革命の発展が未成熟な分、帝国主義とシオニズムがそれを利用しようとしていることです。帝国主義とシオニズムは、解放をもとめる人民のたたかいを利用し、帝国主義の支配を東欧に拡大するために利用し、シオニズムは、パレスチナ蜂起を解体するためを利用しています。
東欧の激変は、人民が主権者となりえていたかった「社会主義」を拒否し、人民自身の手で、主権を獲得しようとするたたかいとしてありました。いかに「社会主義」を名のろうとも、人民の意志を踏みにじるものは、歴史のごみ箱へとほうりこまれてしまうことを示しました。これは、パレスチナの人々が、「東欧の人々は自分たちの石つぶてのたたかいを学んだのだ」と誇りをもって語るように、人民の抑圧者に対する共通の意志を示しています。
しかしながら、この東欧の人民革命が急激に進行した分、人民の解放を実現する主体の発展が遅れています。それは、帝国主義に対しても、経済的な困難からの従属性の政策をとり、また、

的な統一への要求に基づかなければならず、それがなければ、結局は抑圧でしかないことを現実に示しました。

これらの根本的な問題は、スターリン主義の無謬の党観にあります。それが一党支配の根拠となり、また、官僚による経済的な支配が正当化されてきました。すなわち、党自身が「党は間違わない」ということを価値において、形成されてきたこと、それが、党が自己変革を行う回路を閉鎖してきたのです。そして、党の無謬性を疑うものに対しての抑圧的なあり方をつくりました。

人民が革命と社会の主体であり、党は、あくまで、それを支える主体でなければなりません。そして、党が人民を支えるための不斷に自己変革、自己批判をすることに価値をおかなければ、人民が自らを解放するためのたたかいを援助することはできないのです。

また、この根本的な問題は、ソ連や東欧だけの問題ではありません。わたしたちは、日本の共産主義運動の歴史においても、それを教訓としてきました。現在の東欧の人民革命は、無謬の党観につながるスターリン主義的な社会主義や党のあり方、国際主義のあり方の克服を行う第二歩を踏み出しています。

この現状の人民革命の発展の根本的な問題は、われわれ帝国主義本国内人民革命が立ち遅れている結果としてあります。帝国主義内部での人民革命の前進は、経済的に困難におかれている東欧などの人民革命を支援し、また、パレスチナなどの第三世界の人民革命を支援することができるのです。

帝国主義の経済的な発展は、社会主義の物質基盤を準備しています。その人民革命は、民主主義の徹底と共生を求める立場にたって、推進されることにより、困難にある東欧や第三世界の人民革命を支援しつつ、一体になって勝利に向かって前進していくことができるのです。そして、それは、帝国主義による軍事的、経済的な力による人民革命の篡奪、ショニストによる篡奪を阻止し発展させることができるのです。

われわれに問われていることは、帝国主義本国における民主主義の徹底をあらゆる分野で実現し、人民の主権を確立し、共生の道をもとめることです。

しかし、日本の人民革命における根本的な問題も、共産主義者の党の在り方にあります。とりわけ、人民のたたかいを統一する要になるべき党が、分裂の原因となり、また、内ゲバなどとの問題を引き起こすなど否定的な在り方をつくつてきました。それが人民革命の前進を阻む主体

的な問題となっていました。その日本共産主義者の在り方の問題にも無謬の党観の問題が中心にあることをわれわれは総括してきました。われわれは、自己批判Ⅱ党の革命を指導性とする党の在り方、革命と社会の主人公である人民に対する党の役割の問題としてとらえ返してきました。

いまこそ、われわれは、日本の人民革命に勝利し、困難に置かれている東欧の人民革命、第三世界の人民革命とともに前進するために、これまでの党の在り方を否定し、新たな党をつくりださなければなりません。

五、 五・三〇リッダ闘争一八周年にあたって、日本の人民、同志、友人のみなさんに、ともに、人民革命の時代を切り開くことを呼びかけます。

それは、わがリッダ闘争で戦死した戦士たちの遺志を、われわれが引き継いでたたかうことであります。

あらゆる地域、職場で現在から民主主義の徹底をたたかいたいととをすすめなければなりません。そして、人民の主権を打ち立てるこです。日本独占資本は、米帝と結託し、日本人民を支配するのみならず、軍事的、経済的に、第一世界、社会主义諸国を支配しようとしています。それに対して人民の自治と共生の要求を実現のものとしていかなければなりません。

そのためには、人民の主権の確立を推進する統一戦線を形成し、また、地域における自治・

四

人民が革命と社会の主体であり、党は、あくまで、それを支える主体でなければなりません。そして、党が人民を支えるための不斷に自己変革、自己批判をすることに価値をおかなければ、人が自らを解放するためのたたかいを援助することはできないのです。

また、この根本的な問題は、ソ連や東欧だけの問題ではありません。わたしたちは、日本の共産主義運動の歴史においても、それを教訓としてきました。現在の東欧の人民革命は、無謬の党観につつスターリン主義的な社会主義や党のあり方、国際主義のあり方の克服を行う第一歩を踏み出しています。

基盤を準備しています。その人民革命は、民主主義の徹底と共生を求める立場にたって、推進されることにより、困難にある東欧や第三世界の人民革命を支援しつつ、一体になって勝利に向かって前進していくことができるのです。そして、それは、帝国主義による軍事的、経済的な力による人民革命の篡奪、ショニストによる篡奪を阻止し発展させることができるのです。

われわれに問われていることは、帝国主義本国における民主主義の徹底をあらゆる分野で実現し、人民の主権を確立し、共生の道をもとめることです。

しかし、日本の人民革命における根本的な問題も、共産主義者の党の在り方あります。とりわけ、人民のたたかいを統一する要になるべき党が、分裂の原因となり、また、内ゲバなどとの問題を引き起こすなど否定的な在り方をつくつてきました。それが人民革命の前進を阻む主体

五

五、
五・三〇リッダ闘争一八周年にあたつて、日本の人民、同志・友人のみなさんに、ともに、人民革命の時代を切り開くことを呼びかけます。それは、わがリッダ闘争で戦死した戦士たちの遺志を、われわれが引き継いでたたかうことであります。

あらゆる地域、職場で現在から民主主義の徹底をたたかいてとをすすめなければなりません。そして、人民の主権を打ち立てることです。日本独占資本は、米帝と結託し、日本人民を支配するのみならず、軍事的、経済的に、第三世界、社会主义諸国を支配しようとしています。それに対して人民の自治と共生の要求を実際のものとしていかなければなりません。そのためには、人民の主権の確立を推進する統一戦線を形成し、また、地域における自治・

シオニズムに対しても、その物質的な力の前に、従属するような政策をとることになっています。帝国主義とシオニズムは、それを最大限に利用しています。帝国主義は、東ドイツの総選挙に明確に見られたように、直接的に介入し、その物量をもって、他の勢力を圧倒し、資本主義の幻想を振りまくことによって、選挙を乗っ取ってしまいました。また、シオニズムは、世界オニズムの力をもって、東欧への政治、経済に介入し、一連の東欧とイスラエルの外交関係の回復に成功し、また、ソ連のユダヤ人の移民をパレスチナにむけることに成功しています。これらは、パレスチナ革命から見れば、蜂起によつて、国際的に孤立したシオニストへの救済であり、また、大量のユダヤ移民のパレスチナへの送り込みは、パレスチナ革命だけでなく、アラブ民族総体に対する深刻な挑戦となっています。これは、イスラエルに、人口比の転換による被占領地の「民主的」併合の可能性を拡大させていくことになるのです。

東欧の人民の解放のための人民革命の位相と、パレスチナ民族解放の人民革命の位相の相違が、人民抑圧者に対する共同をつくりだすことを困難にしています。

的で、安定した経済をつくりあげることをめざしてきました。しかし、現実にあらわれていては、経済の官僚主義的な浪費の拡大と慢性的な消費物資の不足、経済の停滞でした。そして、その巨大な計画経済は、その経済のすべてのプロセスから社会の主人公であるべき人民の意志を系統的に排除し、強大な官僚機構への人民の従属を創り出す結果となりました。これは、共産主義がめざす、人民自身が決定し、実行するということによって、官僚機構という特殊な存在を消滅させるという思想にまったく反したものになっていました。すなわち、人民にとって、このような経済が自分達のための経済である、と考えることが、まったくできないものとなっていたのです。反対に、官僚は、その特権を利用して、人民を支配し、搾取することが可能となっていたのです。

第三の問題は、民族自決の問題です。社会主義諸国間では、ソ連を中心とした社会主義共同体として、世界社会主義へのプロセスと位置づけられた関係になりました。しかし、これが現実には、東欧諸国のソ連への従属と「制限主権論」にあらわれている各国の自決権の否定となっていました。これは、ソ連を社会主義の原基として拡大することが世界社会主義になるとする考えが、ソ連に根強くあり、主観的には国際的な分業や、共同防衛ということが他の社会主義諸国を従属させる構造になっていました。レーニンが定式化したように、世界社会主義の実現には、民族の自決の承認とその内部からの自発

(3) 教訓から学ぼう

一九六七年以降の軍事作戦、とりわけ、高度な軍事作戦は、シオニスト存在の軍事的傲慢さに反撃するべく、PFLPが作り上げた軍事路線であった。また、武装闘争を拡大し、いついかなる時であろうとも、敵の軍事的、経済的施設に対して直接の大打撃を与える基本的な戦略的措置でもあった。

この意味で、リッダ空港に対してもPFLPが作戦した戦士がかけた英雄的共同作戦は、正しい決定と、軍事活動を拡大させるためにPFLPが作り上げた明快な軍事路線の証である。それは、とりわけシオニスト存在に対する高度な作戦をしきりに、土地の占領は時には容易かもしれないが、占領の維持には、多大な人的、経済的代価を払わねばならないということをシオニストに知らしめるためであった。

立憲と実行

シオニスト当局は、イスラエル国家全体を統括しており、平和と安全がシオニスト存在に行き渡っていると主張していたにもかかわらず、リッダ空港における集中した監視、警備措置にもかかわらず、この作戦は成功裡に、計画通りに貫徹された。

朝の九時三〇分に、リッダ国際空港に、反帝・反シオニズムの国際共同闘争を担うことによつてパレスチナの大義を支持し、防衛する英雄が、数千マイルのかなたから、エール・フランス機に乗つて、到着した。機が空港に到着すると、「攻撃部隊」の三人の英雄は、機を降り、機関

銃と手りゅう弾をつめた鞄を取りに、ラウンジに行つた。

一〇時三〇分に、ラウンジに鞄が到着し、乗客は、自分の鞄を取り始めた。三人の英雄も、緊張のかけらも見せずに、自分の鞄を取った。各自が鞄を取ると、決められた地点にたち、ラウンジの柱のかけに身を隠すと、機関銃と手りゅう弾を取り出し、空港中に散在していた警備兵、税関吏、警官、保安要員を狙つて、同時に一斉射撃を始めた。

敵軍との激戦の中で、攻撃部隊の一名は、ラウンジの滑走路に、飛行機が二機止まっているのを見た。彼は、残っていた手りゅう弾で、この二機を攻撃し、破壊した。作戦は、一五分間ほどで、この間、われわれの戦士は、敵シオニストの戦略地點を占領し、敵に多大な人的、経済的打撃を与えた。

シオニスト存在に対する影響

弾薬がつきたとき、部隊の一名は、重傷を負い、逮捕された。他の国際主義者の同志二名は、すなわちヤスユキ・「サーラハ」とツヨシ・「バーシム」、敵に甚大な被害を与えたのちに、戦死した。

この成功した作戦の後、シオニストの指導者たちは、大変な衝撃を受けた。当時、一九六七年戦争の勝利記念の準備をしていただけに、シオニスト存在は至るところで、心理的、モラル的な打撃を受けた。数日後、当時の首相ゴルダ・メイヤーは、この作戦が引き起こした状況を討議するべく、政府と国会を招請した。その会議

（党の絶対的な正しさ）への結集ではなく、自己批判＝党の革命の立場での結集、すなわち、人民が主体であるという人民原理にたち、自己批判をその指導性の柱とする党への結集として勝ち取らなければならないと思ひます。それがあってこそ、見解や認識に相違が存在していくも、それを不斷に実践を通して総括することによって、統一する在り方をつくることができます。また、共産主義的な人と人の関係の在り方として自らが実践していくことが問われています。

われわれ日本赤軍は、現在の持ち場からこの人民革命の勝利にむけたたかいをともに担います。帝国主義、シオニズムの支配とたかうパレスチナをはじめとする世界の人民の相互支援、連帯のためにリッダ闘争の精神を引き継ぎたましい続けることを誓います。そして、それは、日本の独占資本の支配にたいする人民革命を支えるものとなることを確信しています。

ともに人民革命の時代を切り開き、民主主義

（2）不滅の輝き 国際主義殉教者

ツヨシ・オクダイラ・バーシム 一九四五年生れ
ヤスユキ・ヤスダ・サーラハ 一九四六年生れ

この二名の国際主義殉教者は、一九六九年、京都大学の学生運動に参加し、学生闘争委員会に参加した。一九七〇年、殉教者バーシムは、「パルチザン戦闘団」グループに参加した。これは、共産主義者同盟の支部で、赤軍の一派である。その一年後、殉教者サーラハも、同じグループに参加した。



共生の実践を行うことによって、現在からあらたな社会を建設するたたかいとして推進することです。そして、第三世界、東欧諸国などの人民の国際的な相互支援、連帯を形成することです。

また、その発展を援助することができる党の建設に着手しなければなりません。人民のたたかいから学び、自らを不斷に変革することを通して、役割を果たす党でなければなりません。

「左はパレスチナ解放人民戦線の軍事月報アラ・モカーテル・アッサウラ（革命的戦士）第

九二号一九九〇年五月号に掲載されたリッダ闘争の特集記事である」。

の徹底と共生をめざしましょう。

「左はパレスチナ解放人民戦線の軍事月報アラ・モカーテル・アッサウラ（革命的戦士）第

九二号一九九〇年五月号に掲載されたリッダ闘争の特集記事である」。

の進歩的前衛であるPFLPに参加して国際主義的な闘争を担うことにより、貢献した。

彼らは、多くの戦闘的任務を与えられ、高い士気を示した。さらに、占領下にある大衆の望みを表現するという革命的信念を持っていました。

一九七二年の五月三〇日に、彼らが貫徹した勇敢な作戦は、PFLPが長い闘争の典型でした。勇士を示した。その作戦は、正確に実行され、リッダ多くの高度な質の作戦の典型でした。

この日、PFLPの一部隊として、彼らは、シオニスト国家のリッダ国際空港を攻撃せよとの命令を受けた。その作戦は、敵の土俵の中で戦闘する多くの高度な質の作戦の典型でした。

勇士を示した。その作戦は、敵の土俵の中で戦闘する多くの高度な質の作戦の典型でした。

シオニスト国家に多大な物質的、人的被害を与えた。勇敢なリッダ空港攻撃作戦で、バーシムとサーラハは、戦死した。そして、第三の同志、コウゾウ・オカモトは、重傷を負つて、捕虜とされた。

リッダ空港に対する高度な決死作戦は、革命的高揚期の傑出した模範を作ることになった。なぜなら、この作戦は、敵の土俵の中で戦闘する多くの高度な質の作戦の典型でした。

この日、PFLPの一部隊として、彼らは、シオニスト国家に多大な物質的、人的被害を与えた。勇敢なリッダ空港攻撃作戦で、バーシムとサーラハは、戦死した。そして、第三の同志、コウゾウ・オカモトは、重傷を負つて、捕虜とされた。

リッダ空港に対する高度な決死作戦は、革命的高揚期の傑出した模範を作ることになった。なぜなら、この作戦は、敵の土俵の中で戦闘する多くの高度な質の作戦の典型でした。

この日、PFLPの

我々パレスチナ独立国の民族的諸機関と人士は、以下の点を強調する。

- 一、イスラエルの占領によって、パレスチナ人の生命が刻々と、どこにいようとも危険に曝されているので、パレスチナの村、キャンプ、町を、即刻、国際的な保護のもとに置くよう、繰り返して要求する。
- 二、被占領パレスチナから、イスラエル占領軍を即時無条件撤退させ、国連軍が虐殺の危険に曝されている無垢の生命を保護するよう要求する。
- 三、国連安保理と国際的人道的諸委員会に対して要求する。虐殺を止めさせるための、会議を開催せよ。
- 四、自由世界の国際的労働運動に対しては、即時介入し、同胞の労働者に対しても行われた犯罪を弾劾するよう、要求する。
- 五、今月末にバグダッドで会合しようとしているアラブの指導者に対するは、集団的、あらさまの絶滅の対象にされているパレスチナ

重要日誌

一九九〇年四月一日

殉教者に榮光あれ！
P L O 万歳！

八、カイロで会合している社会主义インター
ナショナルの加盟国に対しては、パレスチナ国
に対するイスラエルの占領を止めさせる責任を
負うよう、訴える。

我々パレスチナ独立国の民族的諸機関と人材は、以下の点を強調する。

一、イスラエルの占領によって、パレスチナ人の生命が刻々と、どこにいようとも危険に曝されているので、パレスチナの村、キャンプ、町を、即刻、国際的な保護のもとに置くよう、

たパレスチナ人労働者を、入植者のあるグループが無差別銃撃した。これも、パレスチナ人が受けてきた数限りない犯罪のほんの数件である。非武装のパレスチナ人に対するこうした一連の犯罪は、イスラエル政府が採ってきたパレスチナ人の命に対する見下しの立場、テロ、過激主義と拒絶の結果である。そして、被害者がパレスチナ人である限り、事実上、殺人者を野放しにしてきたイスラエル当局の在り方の延長で

卷之三

人字體有數人

も前には一本リ

犯罪の中で、初

この犯罪は、

他の虐殺の責任

一味のみが、今

せんじやく

スチナ人を唾棄

三九

うべきものでは

られ無差別に統

二〇九

血を
くべに

徳よりとして傳

しむ子供たちを

イスラエル兵士によつて殺されるという恥ずべき虐殺が起つたが、再度、パレスチナ人の生命に関するイスラエルの過激主義を抑止することは不可能であるということを強調し、反発を招いた。殺されるべきは、アラブ・パレスチナ人でなければならないということなのだ。しかし、パレスチナ人の血を、どこであろうと、時を選ばず、流すことは許されない。イスラエル占領軍の弾圧は、日々、被占領地において、パレスチナ人の無実の婦人、子供や老人を殺害

ゲリラと誤認して発砲。イスラエル兵を負傷させる。

四月一九日（木）

- ・イスラエル空軍、ベイルート南部のPFLP-GCの基地爆撃。

四月二〇日（金）

- ・被占領地で、アピール五五号発表。
- ・南部レバノン被占領地で、レジスタンスが対イスラエル戦闘。五名戦死。

四月二一日（土）

- ・イスラエル軍、南部レバノン被占領地以北ヒズボッラー拠点を地上攻撃。

四月二二日（日）

- ・西ベイルートで、米人人質一名、釈放。

四月二四日（火）

- ・米下院、「エルサレム決議」を、三七八対三四で採択（米上院は、三月二〇日に、同主旨の決議を採択）。

四月二十五日（水）

- ・アサド大統領のソ連訪問予定（二八日から）発表。

四月二六日（木）

- ・ガザのジャバリア・キャンプで衝突。今年最大規模。パレスチナ人四人が殺され、多数負傷。

四月二八日（土）

- ・アサド大統領、二日間のソ連訪問開始。

四月三〇日（月）

- ・レバノン大統領、首相、憲法改正政令に署名。
- ・二人めの米人人質、釈放。

五月二日（木）

- ・エジプト大統領、二日間のダマスカス訪問開始。

五月三日（金）

- ・イスラエルブルガリア国交回復。

五月五日（日）

- ・サウジ外相、ダマスカス訪問。
- ・レバノン大統領、ダマスカス訪問。バグダッド・サミットへの不参加表明。

五月九日（木）

- ・蜂起、三〇ヵ月目に入る

編集後記

ました。

・シオニストは、ソ連系ユダヤ人が、イスラエルへ「移住する」方向へ強制しようと策動しています。仮でのユダヤ人の墓地荒らし、また、米国での爆弾事件などが、連續して起こり、反セム主義が台頭してきたと、マスコミを使って宣伝しています。しかし、ハイファでの墓荒らしで逮捕されたのは、ユダヤ人自身であります。この犯人は、イスラエルのユダヤ人を反セム主義台頭の危機意識で統一させようとしたと意図を自供しています。

・アイン・カラ（リション・レツイオン）の虐殺は、和平イニシアチブを葬りさろうとするシオニストの陰謀です。パレスチナ人民を挑発し、PLOは、テロ組織」という従来のキャンペーンを正当化すること、PLO内部の矛盾を激化させ、内部分裂にまで持っていくことによって、

「PLOは、テロ組織」という従来のキャンペーンを正当化すること、PLO内部の矛盾を激化させ、内部分裂にまで持っていくことによって、それはイスラエルの側でないという口実ができる一方、ソ連からの「移民」も確保できるとされています。それによって、和平過程の障害となっているのはイスラエルの側でないといえます。

・日本のマスコミの中でも、シオニストの陰謀を暴くことが反セム主義であるというシオニストの論理を展開しているものがあります。しかし、現在の東欧、ソ連の変化に対するシオニストの役割は、予想以上のものがあるのは事実であります。この策動との闘いが必要です。

・盛大な集会を行っています。印象的であったのを記念する集会を終わったところです。リッダ

闘争の戦士たちとともに闘ったパレスチナの同志たちや、他の革命組織の同志たちも参加し、盛大な集会を行っています。印象的であったのを記念する集会を終わったところです。リッダ

士の遺志が現在のインティファーダの中に生き続いていると確信しているということでした。

・国際主義の血の連帯は、現在のソ連、東欧の変化の中でも、不变であることを確信させてくれ